

# 平成 22 年度植物友の会活動記録

平井健一郎

## はじめに

植物友の会は、一般から募集した植物に興味を持つ人達の集まりで、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和 54 年 10 月に設立された会である。

会費は、個人会員が年額 2,000 円、家族会員が年額 3,000 円、企業等の賛助会員が年額 5,000 円となっている。10 月 1 日以降に入会の場合は、年会費を半額にする規定を設けていて（賛助会員は除く）、今年度 10 月以降の入会は個人 2 人、家族 1 組 2 人の申込があった。

平成 22 年 12 月現在、会員数は個人会員が 163 (△ 9) 人、家族会員が 31 (△ 9) 組 73 (△ 27) 人、企業等の賛助会員が 11 (△ 0) 団体である。( ) 内は昨年からの増減会員数、△：減。

## 1. 活動 (表 1・2)

### (1) 例会・運営委員会

2 ヶ月に 1 回、植物公園で開催され、植物に関するスライド（海外植物観察報告・山歩クラブ山行報告）や栽培講習、園内観察、種苗交換などを実施した。

また、毎例会の開催前後に運営委員会を開催した。例会前開催の同委員会では、例会での連絡事項・内容について打ち合わせを行い、それらの決定事項からプログラムを作成・印刷・頒布した。例会後には今後の事業の執行計画や予算、会の運営などについて毎回検討・協議した。

今年度、山草部会会長の交代に伴い、三宅義信氏に代わり柴田昌男氏が新たに運営委員へ就任した。



写真 1. バラ園ガイド (2010 年 5 月 22 日)

### (2) 講習会 (年 2 回)

第 1 回の講習会として当園栽培・展示課濱谷修一技師により、「バラ園ガイド」を行った。栽培・展示課職員からオールドローズ・モダンローズの栽培・管理を含めた解説を聞くことができ、質問をする姿も見受けられた (写真 1)。

第 2 回は、昨年につき「草木染め」とした。大温室の栽培・管理を担当している第一栽培・展示係の磯部課長補佐の進言により材料はバナナを使うこととし、昨年同様、会員の藤井かおり氏・白井まり子氏を世話役として、種あり野生バナナを材料とし、葉のみならず果実も種を含めて利用し、媒染液として鉄とアルミを用いた (写真 2)。参加者は昨年度と同講習会より少なかった (9 名 (△ 3)) が、思い思いの細工をあらかじめ施した布を染め上げ、それらの作品を秋開催する友の会作品展にてスカーフとして展示した (写真 3)。

### (3) 観察会

年 2 回春と秋に、日帰りで行う。近郊の野山に出かけ、野生の草花や樹木を身近に観察するとともに、会員相互の親睦を図った (お互い名前が分かるよう参加者は名札を着用)。

毎回催行場所の決定が大きな課題であるが、参加者へのアンケートから「別の季節にも訪れてみたい」



写真 2. 草木染め (2010 年 8 月 21 日)



写真 3. 草木染め作品の友の会作品展での展示

表 1. 平成 22 年度植物友の会事業記録

月 日	事務事業	場 所	内 容		備 考
平成 22 年 4月 21 日 (水) 9時 20分～14 時	例会①等の案内発送	植物公園小会議室	例会①案内 観察会①参加者募集 ×切 5/7 (木) 講習会①参加募集 ×切 5/7 (木) 運営委員会開催案内 会員証配布 前会員で未加入の方へ再通知送付		職員 1 名 会員 3 名
5月 4 日 (火・祝)	講習会ボランティア	大温室前広場	みどりの日 記念行事	クラフト教室、活動紹介	会員 5 名
5月 7 日 (金) 12時～16 時	山草部会 展示準備	展示資料館 ロビー	山草部会展示物搬入		職員 1 名 部会員 8 名
5月 8 日 (土) ～9 日 (日)	山草部会展示	展示資料館 ロビー	山草部会展示		部会員
5月 9 日 (日) 13時 20分～15 時	例会①	植物公園講堂及び屋外	園内植物観察		職員 2 名 会員 61 名
11時 30分～11 時 45 分 15時～15 時 50 分	運営委員会	植物公園小会議室	事業の執行について		職員 2 名 運営委員 5 名
5月 22 日 (土) 10時 30分～11 時 50 分	講習会①	バラ園	「バラ園ガイド」 講師：濱谷修一技師		職員 2 名 会員 8 名
5月 26 日 (水)	観察会①事前下見	道後山クロカンパーク (庄原市)	レンゲツツジやヤマツツジ、スズラン、ヒメザゼンソウなど比婆地域の自然を観察		山口富美夫氏 (広大大学院) 職員 2 名
5月 29 日 (土)	観察会①				山口富美夫氏 (広大大学院) 職員 2 名 会員 39 名
6月 24 日 (木) 8時 50分～11 時 50 分	はなの輪 123 号及び 例会②等の案内発送	植物公園小会議室	はなの輪第 123 号 例会②案内 講習会②参加募集 植物友の会作品展出品申し込み案内 運営委員会開催案内		職員 1 名 会員 3 名
7月 11 日 (日) 13時 20分～15 時	例会②	植物公園講堂	スライド「至仏山と尾瀬の植物」 講師：中島保廣会長 夏の園芸作業		職員 4 名 会員 43 名
11時 30分～50 分 15時～16 時 55 分	運営委員会	植物公園小会議室	事業の執行について		職員 2 名 運営委員 4 名
8月 21 日 (土) 10時～14 時	講習会②	植物公園講堂	「草木染め～バナナ」 世話人：友の会会員 藤井かおり氏・白井まり子氏 (友の会作品展へ出品)		職員 1 名 会員 9 名
8月 28 日 (土) 9時 30分～11 時 30 分	はなの輪 124 号及び 例会③等の案内発送	植物公園小会議室	はなの輪第 124 号 例会③案内 観察会②参加者募集 運営委員会開催案内		職員 1 名 会員 4 名
9月 6 日 (月)	展示会準備	展示資料館	植物友の会作品展搬入		職員 1 名 会員 19 名
9月 7 日 (火)～ 12 日 (日)	展示会	展示資料館	植物友の会作品展		展示監視 なし
9月 12 日 (日) 13時 20分～15 時	例会③	植物公園講堂	秋の園芸作業 及び 園内植物観察		職員 4 名 会員 54 名
11時 30分～12 時 10 分 15時～16 時 15 分	運営委員会	植物公園小会議室	事業の執行について		職員 2 名 運営委員 5 名
9月 16 日 (木)	観察会②事前調査	道後山クロカンパーク (庄原市)	秋深まりゆくブナ林を擁す比婆地域を観察		中坪孝之氏 (広大大学院) 職員 2 名
9月 26 日 (日)	観察会②				中坪孝之氏 (広大大学院) 職員 3 名 会員 36 名
10月 9 日 (土) ・10 日 (日)	講習会ボランティア	大温室前広場	秋のグリーンフェア	クラフト (クリスマスツリー)	会員 3 名 5 名
11月 3 日 (水・祝)			開園記念日		会員 6 名
10月 28 日 (木) 9時 40分～ 13 時 50 分	はなの輪 125 号及び 例会④等の案内発送	植物公園小会議室	はなの輪 125 号 例会④案内 運営委員会案内		職員 1 名 会員 2 名
11月 14 日 (日) 13時 20分～15 時	例会④	植物公園講堂及び屋外	秋の園芸作業 及び 園内植物観察		職員 4 名 会員 41 名
11時 30分～11 時 45 分 15時～16 時 55 分	運営委員会	植物公園小会議室	事業の執行について 平成 23 年度事業計画検討		職員 2 名 運営委員 5 名
12月 12 日 (日)	例会⑤等の案内発送	植物公園 管理課事務室	例会⑤案内 (年賀状) 印刷 運営委員会開催案内		職員 2 名
平成 23 年 1月 9 日 (日) 13時 20分～15 時 20 分	例会⑤	植物公園講堂	講演会「ガラバゴスの動植物」 講師：大澤俊則会員 園内植物観察		職員 2 名 会員 41 名
11時 30分～50 分 15時 30分～17 時 10 分	運営委員会	植物公園小会議室	事業の執行について 平成 23 年度事業報告及び決算書案作成 平成 23 年度事業計画案作成		職員 2 名 運営委員 6 名 (AM) 5 名 (PM)
2月 24 日 (木) 9時～	はなの輪第 126 号及 び例会⑥等の案内発送	植物公園小会議室	はなの輪第 126 号 例会⑥案内 総会開催案内 運営委員会開催案内		職員 1 名 会員 3 名
3月 2 日 (水) 13 時～ 3 日 (木) 9 時 40 分～	監査	植物公園講堂	平成 22 年度決算		職員 1 名 監事 2 名
3月 13 日 (日) 13時 20分～15 時	例会⑥	植物公園講堂及び屋外	総会 春の園芸作業及び園内植物観察		職員 4 名 会員 73 名
9時～10 時	運営委員会	植物公園小会議室	総会提出議案等		職員 2 名 運営委員 6 名

旨の回答が何件か見受けられたことから、平成22年度観察会は春秋とも「道後山高原クロカンパーク」とした。春の観察会は広島大学大学院山口准教授を講師とし、クロカンパーク管理事務所近くの落葉樹林内に咲いていたヒメザゼンソウの観察（写真4）に始まり、春うららかな中、周囲を満開に咲き誇るズミに囲まれ、湿原内に咲き残っていたサクラソウ、丁度これから咲き始めるスズラン等を観察することができた。

秋の観察会は同大学大学院中坪准教授を講師とし、同場所の観察を行った。調整池周辺に生えていたタデの仲間の分類表検索や、春は「これ何かねぇっ!？」と地面から生えていた蕾のような芽生えが、秋には大きく肥大したツチアケビであることが判明して、春の観察会も参加した会員は得心していた。

また春・秋いずれにおいても、同クロカンパークを管理する前田氏から、道後山地域のかつての風景・風習についても話を聞くことができた。

この度初めて春・秋とも同じ場所の観察としたが、観察場所の最も見ごろとなる時期以外であっても、参加者の満足のいく観察会となった。

#### (4) 展示会

年1回秋に、鉢物(山草部会員等)、写真、クラフト、部会活動(山歩クラブ会報)などを出品し、友の会



写真4. 春の道後山観察会 (2010年5月29日)



写真5. 山草部会員等による鉢物の出品

作品展として開催している。平成22年度は山野草(写真5)、草木染め(第2回講習会作品含む)、クラフト等の出品があった。写真の出品が例年に比べて極端に少なかったが、21名126点の出品となった。この度は臨時売店を開設しなかったため、監視員をおかなかった。

また山草部会においては、5月の例会に合わせてその前日の土曜日と当日日曜日に鉢物を中心にロビー展を開催した。

#### (5) 園内ボランティア

植物公園において、栽培・管理作業の補助、チョウ・野鳥観察、小学校自然体験教室やイベントでの友の会コーナーにおけるクラフト講習会の補助・指導・販売、会誌の発送作業などを実施した(表2)。秋のグリーンフェアでの友の会コーナーの10月9・10日のクラフト教室では、材料代100円又は300円を徴収し、植物公園が手数料として12%差し引いた残金が友の会の収入となった。また、小学校の自然体験学習として木の実を使ったクラフト作り(羊)を制作・指導し(写真6)、植物公園の業務に大きく貢献した。

年間6回以上管理ボランティア活動に参加している会員に管理ボランティア登録証を発行し、登録証提示により、駐車料・入園料免除等の特典を付帯している。平成22年度は15名が管理ボランティアとして登録され、カスケードのモザイクカルチャーやハンギングバスケットの植え込み、設営にも携わり、活動した。

#### (6) 会誌の発行

会員が撮影した写真を用いた表紙に、植物に関する話題や会の活動、植物の栽培方法などを載せた会誌「はなの輪」を年4回発行、会員に配布している。



写真6. 自然体験学習でクラフト制作を指導する管理ボランティアの方々 (2010年10月26日)

表 2. 平成 22 年度植物友の会 ボランティア活動報告 (平成 22 年 4 月 ~12 月)

月	主な作業内容	参加人数
4月	はなの輪・例会案内発送、サクラソウ展、アジサイ栽培・管理、チョウ観察・調査、その他管理ボランティア等	46名
5月	みどりの日友の会コーナー=クラフト制作指導、植物友の会山草部会 ロビー展示、ハンギングバスケット(ペゴニア)作成、アジサイ管理、チョウ観察・調査、その他管理ボランティア等	43名
6月	ハナショウブ研修、はなの輪・例会通知発送作業、アジサイ挿し木・剪定、モザイカルチャー植え込み等カスケード管理、チョウ観察・調査等	29名
7月	アジサイ挿し木・剪定、チョウ観察・調査、その他管理ボランティア	17名
8月	夜間開園キャンドル着火、はなの輪発送作業、草木染講習会準備、除草・植え替え等管理	23名
9月	夜間開園キャンドル着火、友の会作品展展示、ハンギングバスケット(コリウス)作成、除草・植え替え等カスケード管理	36名
10月	秋のグリーンフェア=ワイワイキッズコーナー手伝い、クラフト制作・指導、カスケード管理等	49名
11月	開園記念日友の会コーナー=クラフト制作指導、クリスマス飾るフラワー展手伝い、アジサイ管理、カスケード管理、ハンギングバスケット(シクラメン、ハボタン)作成、野鳥観察等	55名
12月	夜間開園キャンドル着火、アジサイ管理、野鳥観察、球根の植付等管理ボランティア	22名
計		320名

新入会員には前年度一年度分 4 冊と当年度分の会誌のバックナンバーを贈呈した。

### (7) 部会

山歩クラブと山草部会がある。

前者は、毎月 1 回例会として近郊の山に出かけ、年 1 回県外遠征、総会、懇親会を行い、年 4 回の会報を発行している。会費は年額 3,000 円である。「山歩きがしたいから」と山歩クラブに参会すべく植物友の会へ入会している会員も多い。今年度は大阪府の金剛山への一泊二日の県外遠征のほか、島根の三瓶山や山口の右谷山へ日帰り山行、広島では比婆山のほか阿多田島周遊も催行した。後者は、年 2 回野外観察会や展示会、2 ヶ月に 1 回友の会例会前午前中に例会を開いている。会費は年額 1,000 円である。栽培・育成した苗物の販売等臨時売店も展示会や例会で開いている。

### (8) 友の会花壇

園芸作業の講習を実際に体験でき、会員相互の交流が進み、友の会が魅力ある組織となっていくことを目的として、展示資料館横の花壇を平成 17 年度より友の会が管理することとなっている。

今年度の大きな作業としては、1 月と 11 月の例会開催日や管理ボランティア作業日にヒメツルソバの大きく広がった株の整理やハイシマカンギクの刈り込み、クリスマスローズの古葉取りを行った。また、植栽変更について昨年藤井氏が植栽の構想を練っていたが、白井まり子氏により自宅で余った苗を植え付ける程度にとどまった。

## 2. 実態調査アンケート

会員が減少している現状を改善すべく、第 2 回運営委員会(7 月 11 日(日)例会時開催)において事務局の方から提案した『満足度調査アンケート』を「はなの輪 124 号」送付時(8 月 28 日発送)に

同封し、会員全員(237 通)にアンケート調査を実施した。

郵送/FAX/持参(持参以外は各自負担)いずれかの形で回収することとしたが、11 月の例会までの回収が芳しくなかったことから、当日用の回答用紙(黄色)を用意し、回収率の向上を図った。その結果、12 月現在 46 通(回収率 19.4%)の回答を得た。

各設問と回答の分布を下图に示す。

### アンケート結果からの考察及び提案

#### ・回収率 = 19.4%

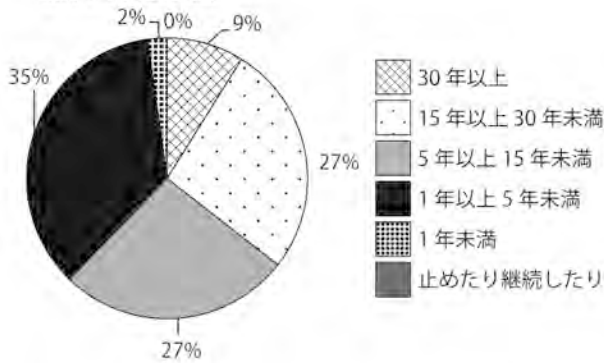
回収率は、12 月現在(これ以上待っても提出は見込めないと思われる)送付した全会員(個人・家族・賛助)に対し 19.4%(郵送 36/FAX4/持参(黄紙)5)となった。

送料を各自負担としたことから、回答いただいた会員は友の会活動に好意的な方が多いと考えられる(設問 6)。これら 2 割弱の回答がどのくらい全会員の意見を反映するか未知数であるが、今後の会運営に当たり、貴重な意見を収集することができた(設問 7・8)。

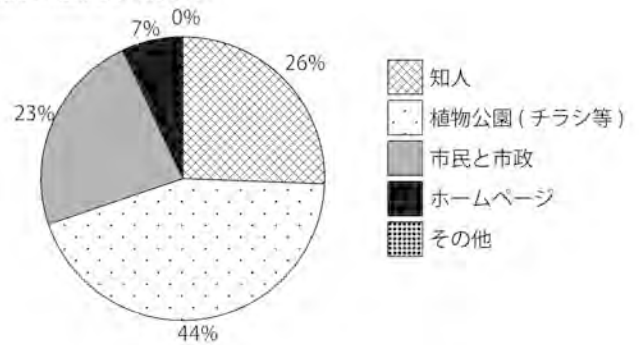
#### 設問 1 の回答数と分布

	選択肢	回答数	割合
男女分布	男	17	37.0%
	女	29	63.0%
年齢分布	20 代以下	0	0.0%
	30 代	0	0.0%
	40 代	0	0.0%
	50 代	4	9.3%
	60 代	19	44.2%
	70 代	15	34.9%
	80 代以上	5	11.6%
種別分布	個人	30	88.2%
	家族	4	11.8%
	賛助	0	0.0%

設問 2. 会員在籍期間



設問 3. 活動を知ったのは?



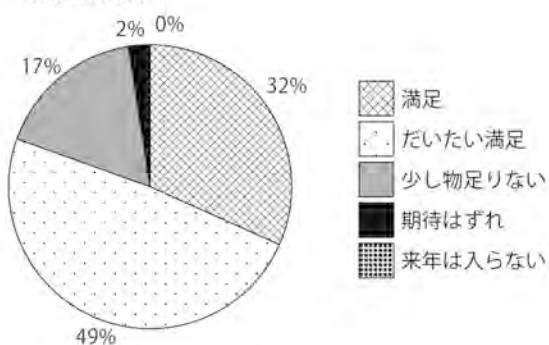
設問 4. 入会した動機



設問 5. 参加する活動



設問 6. 満足度



・入会の動機 (設問 4)

友の会のどういうところが興味を引き入会したのか判断材料の一助とするため設けた。植物に関する講演会 (19%)、野外観察会 (18%)、園内観察会 (15%)、例会 (12%)

の順に多かったことから、植物について。何かしら情報が得られないか、期待して入会する傾向が見られる。

・参加する活動 (設問 5)

動機に相応した回答と思われる。ただ、野外観察会に関しては入会動機 18% に対し参加が 11% と予想に反して低かった。動機は多いにも関わらず、少ない参加となっているのは、観察会開催時に不都合で参加できなかったためではないかと考えられる。

これらの意見を受け、以下の点に留意が必要と思われる。後述の○付番号は参考とした意見に相応。

・会員の要望・意見収集 (設問 7)

①もうこれくらいのことは以前やったから、と案から削除していないか、新入会員にはニーズがある可能性を検証する必要がある。①③④

設問7 友の会への要望（回答の一部抜粋）

①	60代男性	植物管理の基礎知識
②	60代女性	例会でスライド等は説明やエピソードを付け加えてほしい 例会で植物に関する楽しい話話が聞きたい
③	70代男性	よりよい盆栽知識が得られるかを思い入会したが「はなの輪」だけで期待外れだ
④	70代男性	植物に関する基本的な研修

設問8 友の会活動の改善策

①	60代男性	改善案＝他県の植物園の訪問、友の会との交流
②	50代女性	初心者でも入会して何度かいろいろなイベントに参加させていただくたびに、興味は深まっていくので、「最初の一步」を越えられる何かがあるといいと思うのですが…
③	60代男性	草木の剪定の仕方等
④	60代女性	山草の育て方 etc. いろいろ学習したい事があるので
⑤	70代男性	若い人達の会員確保の努力必要では？ ex. 噴水迷路その他（オニバス・夜間開園 etc. 全ての行事で）催事での若親達への積極的P、R.
⑥	70代女性	はなの植え方がよくわかりません。
⑦	50代女性	野外観察会の回数が増えたら嬉しいです。
⑧	60代女性	「ホームページ」・「市民と市政」の友の会のご案内に山野草部会、山歩クラブの紹介を掲載しPRする。
⑨	70代男性	第一次団塊世代から昭和の繁栄をになった人々のリタイアがまだ続いています。この人達の中から、緑？森林浴・里山・緑化・水等に興味を持つ人達を集めるボランティア活動を催し、その中で、植物観察を毎回1時間～30分程度やっていくと、興味を深めたい人たちが発掘できるのではないのでしょうか。

②例会等でスライド上映や講演をしているが、講演者がスライドを次々流すだけで、参加者を置いてきぼりにして（興味を引いているか反応も見ず）自己満足していないか。その写真を撮った理由や動機まで付け加えて、観賞のみでなく驚きと共感が得られる講演を目指すべき。③+日々の例会でも筆者は感じる。

こうした意見から、

**対策**

本当は聞きたい／やってみたいのに運営委員会が独り歩きして（＝案から外して）しまうことが無いよう、例会開催時やアンケート等を利用して会員からのタイムリーなこまやかな要望の収集・調査を怠らず、要望に沿った事業の計画・検討が必要

**・これからの改善案（設問8）**

①予算が無いからと早々に切り捨てるのではなく、その要望をどうしたら遂行できるか、今一度検討する必要がある。①⑦

②こちらが情報発信しているつもりでも、会員がキャッチできていない状況がうかがえることから、角度を変えた＝今までと視点が違った情報発信を検証する必要がある。③④⑥⑧

③植物友の会について「植物公園ホームページ」に掲載はあるものの、「詳細について全く不明」との市民の方からの電話もあった。⑧+会員外 TEL

こうした意見から、

**対策**

入園料等の金額面では、年間パスポートに比べ友の会入会でそのメリットを感じていただけない現状において、金銭面ではなかなか改変は難しいが、「友

の会会員でないと」と思わせる魅力的な事業やイベントを提案、立案していくことで、入会者数増を図らねばならない。

まず、現会員・非会員を問わず、どういうことが興味を引くのか、どういった要求があるのか掘り出し・情報収集を図るため、アンケート調査等の実施により、要望の情報収集が必要と考える。

ホームページの友の会に関する掲載については、5月にも市民の方から指摘を受け、例会や講習会の様子の写真も併せて掲載し改善を図った。

また、入会時の住所の記載が引っ越してきたばかりで間違っており、会報が全く届かないことから、入会しても知らせも何にもないので、次年度継続を辞退された方もいらっしゃった。また、引っ越しに伴う住所変更で会報が届かなくなり、例会の度に直接受け取られる会員もいた。これは、新住所記載が不十分であったことに加え、事務局が確認を怠り、旧住所のまま発送していたため発生した不手際で、会員各個のきめ細かな対応が求められる。こうした問題の回避として、住所管理を担当職員間で共有し、不要となり紛らわしいデータは削除、常に何人でも容易に判別できるデータ管理が求められる。

今回、設問7・8では具体的なコメントや意見を収集できた。この設問により友の会に求めるもの／運営委員会との認識のずれ等も把握する手掛かりを得られた。未だ一部の意見を拾ったにすぎず、今後、取り組みの立案・活動の宣伝等していく際には、更なるデータを収集・分析の上、運営に反映していくことが急務である。